

## 令和元年度 第2回京都府立図書館協議会 議事要旨

### 1 開催日時

令和元年 11月21日（木）午前10時から12時まで

### 2 場所

京都府立図書館（京都市左京区岡崎成勝寺町）

### 3 出席者

原田隆史委員（会長）、小川雅史委員、桂まに子委員、亀井貴子委員、潮江宏三委員、永田紅委員、西亜希子委員、松下亜樹子委員

### 4 会議の内容

- (1) 令和元年度第1回協議会の議事録要旨について
- (2) 令和元年度上半期取組状況（9月末現在）について
- (3) 京都府立図書館サービス計画について
- (4) その他

### 5 協議事項

- (1) 令和元年度第1回協議会の議事録要旨について
  - 事務局から概要について資料に基づき説明
- (2) 令和元年度上半期取組状況（9月末現在）について
  - 事務局から概要について資料に基づき説明
  - 委員意見
    - ・ 京都女子大学と共催の「京女サロン」は、ナレッジベースの活用について、従来のイベントとは違う使い方ができたと思う。「一箱ライブラリー」「一箱トーク」といった取組は、調べ物以外の接点で、大学生が府立図書館と色々な関わり方ができる可能性を感じた。
    - ・ 10月に台風で中止になったが、この取組をゼスト御池で実施する予定だった。図書館の外に出るといった可能性もあることを感じる事ができた。
    - ・ 図書館の外に出て他のところで伝わっていくというのも面白い取組である。
    - ・ 学校支援セット貸出については、担任にとっても学習に役立つことを実感しているので、さらに活用されればよいと思う。
    - ・ 出前研修については、図書館ごとに求めていることが違う中、各図書館のニーズに応じた研修をしていくことは非常によいことだ。
    - ・ 多様な取組をされておられることを評価する。何回かやってみたが効果が薄いものは徐々に整理されたらよいのではないか。
    - ・ 来年の3月には京都市京セラ美術館が開館するので、美術館のスケジュール等を十分把握して、連携する展示を実施していただけたらよいと思う。美術館にもいろいろなスペースが新たにできたので、府立図書館からの提案で、何かの展示をするということも考えていただいたら、お互いの連携で何かできると思う。

- ・ 調べ物学習において、京都大学理学部や京都華頂大学家政学部などが活用している事例は、非常に面白いと思う。
- ・ 府立図書館が所蔵している資料で、府立図書館ならではの展示をもっと進めてもよいと思う。
- ・ 大学を卒業したら大学のデータベースは使えなくなるが、府立図書館に来たらこんなデータベースが使えるということに、興味を持つ学生が多くいると思う。もっと広報すればよいと思う。
- ・ 1階の入り口を入ったところの空間を、もっと入りやすくなるように工夫できればよいと思う。
- ・ 調べ学習や講演会等は、その取組を通じて利用が広がるとともに、繋がりも広がるなど、図書館の使い方を知らない方が、使い方を理解いただける効果のある取組である。

### (3) 京都府立図書館サービス計画について

- 事務局から概要について資料に基づき説明
- 委員意見

- ・ 全体の整理の仕方はこの考え方でよいと思うが、整理されたことで、例えば「情報発信」という言葉が項目から消えてしまっている。「情報発信」で何をしたいかと言うことは、ある程度見える形にした方がよいのではないかと。
  - 情報発信は非常に大切だと思っている。全ての項目において情報発信は必要であり、常に努めていきたいと考えている。
- ・ 「情報発信」という言葉には、広報に関しての情報発信と、データ化を含めた様々な資料の発信という両方の意味があるので、情報発信という言葉は入れていただくとよいと思う。
- ・ 「来館者」「非来館者」という言葉が「利用者」にまとめられたが、新しい計画では、来館されないけれどサービスを受けたい方への間接サービスも大切となる。非来館者への対応はきちんと出していくべきではないか。
- ・ スマートフォンの普及を受けて、府立図書館でどうしていくか、ホームページのリニューアルを含めて、情報発信に力を入れていただきたいと思う。
- ・ 本はどんどん増えていくので収蔵空間をどのようにしていくのか。いちばん大変な問題かもしれない。
- ・ この図書館を使って何かクリエイティブに新しいものが生まれていくような、体験ができるようなサービスの仕方もあると思う。
- ・ 関係機関や団体と連携した取組は必要であり、大切である。図書館だけではなく、他の機関と連携して、図書館がまた違った取組を進めていくことができるのではないかと。
- ・ 図書館総合展では、図書館の中でスポーツ、例えばヨガの取組もできるという話を聞いた。他の部署と連携していくことは非常に大切であると感じた。
- ・ コンセプトが調査研究と市町村支援ということで、それを核にして三つの柱が明確になっていて、大変よいと思う。
- ・ ネットワークは大切であり、将来的にはネットワークをますます充実させていくという方向でよいと思う。
- ・ 評価項目は減ったとしても、職員が新たなことや継続していくことを考えて、そ

れを評価していくことは大変よいことである。

- ・ 「議論し発信する場を提供し問題を解決する」という現計画は非常に野心的な目標で評価していた。新しい計画でも、「多様な議論の発信に寄与する」と加えてもよいと思うので、この言葉を活かす方向で検討いただきたい。
- ・ 京都府立図書館を最大限に活用している府立久美浜高等学校図書館が今年のライブラリー・オブ・ザ・イヤーで優秀賞を獲得した。府立図書館との連携というところからも、参考になる事例だと思う。
- ・ 京都府というところにこだわって、府内の情報をあつめて発信する、府内の情報ということで、そのようなとらえ方ができるのではないか。
- ・ 5年後を見すえたこの図書館の将来像というのを踏まえた計画を作ることが大切である。これから図書館にはどんどん厳しい時代が続いていくと思う。
- ・ この先を見すえた計画として、一つのキーは来館者。来館者を将来的に増やしていくのかどうか。もう一つのキーは、地域の核として府立図書館をどのようにしていくか。今後、空き教室が増えていく府の施設整備と学校教育とのリンクができるような将来的構想も必要と思う。
- ・ 大きなビジョンを持って、楽しいなとか、面白いなというワクワクするような計画にできたらと思う。

<原田会長まとめ>

- ・ サービス計画の全体像としては、この形でよいという意見と、項目をまとめたことにより見えにくくなっている、例えば「非来館者への対応」「デジタル資料を含めた情報発信」「課題解決」という言葉を入れた方がよいという意見をいただいた。
- ・ サービス計画については、本日が検討のスタートであるので、次回の協議会でも引き続き議論いただき、将来像につながるようなことも含めて、考えていただきたい。

- (4) 今後のスケジュールについて  
次回は2月ごろの開催を予定